

[第876回ゼミ報告] 2024年3月22日号

マイナス金利・低金利から「普通の金融政策」へ、ゆっくりと利上げすると。しかし大量の国債残高、「異次元の金融緩和」遺産！ 正常化は遠い—
3月13日のゼミは、柄谷行人『力と交換様式』第4部「社会主義の科学」の2章「社会主義の科学2」、3章「社会主義の科学3」を後藤さんの報告で行いました。エンゲルスはイギリスで産業資本の実態、賃労働・チャーチスト運動からプロレタリアの社会主義運動に注目、またドイツ農民戦争にも、さらに原始キリスト教の研究に。オーウェンの生産協同体は交換様式Aの回復ともいえる。ルカーチはマルクスの物神化を無視し、物象化に言い換えた。しかし、マルクスが強調したのは物神化であり、交換様式Cからの“力”だ。マルクスは『資本論』を交換様式Cまで論じたが途中でやめ、本来の課題を曖昧にした。交換様式A・B・Cは経験的・実在的に見えるが、交換様式Dは観念的・想像的で、宗教的・神学的問題と扱われた。今日の“科学者”は国家・資本・ネーションに“力”あるのに斥ける。BもCも揚棄することはできないのか。それが可能なのは高次元でのAの回復、Dの力によってである。マルクスは神を持ち出さず考えたが、カントは考えていた。今や戦争・恐慌の危機が幾度もあるが、Aの高次元の回復、Dが必ず到来する。討論では、「ドイツイデオロギー」のフオイエルバッハ論をエンゲルスが書いたというのが疑問、マルクスの口述を筆記したのでは。「ユートピアから科学へ」と訳しているが、従来の「空想から科学へ」とは異なる訳でいいのか。「サイエンス」を科学ではなく、宗教的な概念と捉え、「社会主義」に対しては交換からくる「力」で捉えている。ドイツ農民戦争を論じるエンゲルスは自らの時代、1848年の敗北は農民とどう同盟するのかに論点あり。柄谷と大澤真幸の関係は賛同者。さらに、久留間鮫造と宇野弘蔵の価値形態論争、物神崇拜、廣松渉の物象化、宇野理論、井村・北原論まで議論が進んだ。会場参加は小野さん・川口さん・山口さん・初参加の井貝浩さん・高田、オンライン参加は竹内さん・後藤さんの7名でした。

* 3月27日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 851 3304 5985 パスコード: 400058

* 次回4月10日からの第2週ゼミのテキストは、斎藤幸平『マルクス解体—プロメテウスの夢とその先』に決まりました。また、第4週ゼミでの『帝国主義論』の次の候補に、佐々木隆治『資本論第3巻』KADOKAWA。

***** ゼミ日程 *****

- 3月27日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
レーニン『帝国主義論』6.列強・・・7.特殊な段階・・・報告小野さん
4月10日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
斎藤幸平『マルクス解体』はじめに 第1章 物質代謝 報告小野さん
4月24日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
レーニン『帝国主義論』8.寄生性・腐朽・・・9.批判 報告者未定
その後 5/8, 5/22, 6/12, 6/26, 7/10, 7/24 [アイクルの部屋]